

Kan

2021年1月

みなさん明けましておめでとうございます。去年は新型コロナウイルスで不安な一年でしたが、今年こそはウイルスが収まってくれることを願っています。また、学校でお友達と会えることのすばらしさなど、通常だと見逃してしまうような幸せを感じ取ってほしいです。ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカがおっしゃっていた“幸せになるために生まれてきたのだ”という言葉に勇気づけられる気がします。不幸な数を数えるよりも、幸せな数を数えてみませんか？自分の気持ち次第で、案外楽な気持ちになれるのではないのでしょうか。

さて、今回ご紹介するのは、悲しい場面など一切なく安心して楽しく読める本です。それは……『動物のお医者さん』佐々木倫子著 白泉社文庫 1995～1996です。全8巻あるのですが、主人公の西根公輝ことハムテルと、親友でネズミ嫌いの二階堂がH大学の獣医学部に入り、獣医師を目指すストーリー。そこには、顔は少々いかついが心優しいシベリアンハスキーのチョビ・暴れん坊ニワトリのヒヨちゃん・姉御肌ネコのミケなどの動物と、ハムテルのおばあさん・アフリカ好きの漆原教授・ウマ好きの菅原教授・マイペースな菱沼聖子などクセの強い人達が絶妙に描かれていて、コミカルな作品です。ちなみに、この本は漫画です。テレビドラマ（実写）も2003年に放送されたんですよ。このテレビドラマを見て笑いこけていたのを覚えています。この本の影響でシベリアンハスキーが人気になり、近所の友達も飼いだしたので、その友達の家に行ってハスキーに会うのが当時楽しみでした。

この本を読めば、きっと様々な場面で思わず笑ってしまうことでしょう。しかも笑いだけでなく、ハムテルの同級生の清原が社会人になり、引越しのため愛犬と離れ離れになるとき、愛犬が環境よりも飼い主を選ぶという感動的な話も出てきます。感心するのは、描かれている動物の表情が豊かというか、繊細でまるで本物みたいに見えるところです。チョビも最初登場した時、小さくて丸っこい顔つきだったのがストーリーの流れとともに、だんだん勇ましい成犬にちゃんと描かれています。著者はなんと、獣医学出身ではなかったことにおもわず驚いてしまいます。著者の着眼点・感性がすばらしいのだからなあと思います。そして、私事ですが、犬・亀・ハムスターなどを昔飼っていた時を思い出し、またペットを飼いたいなあとも思わせてくれました。それくらい心温まる本なんだと感じます。読者には、この本をきっかけに獣医師になろうと決めた方もいらっしゃるでしょう。受験シーズンですが、進路で悩んでいる人はもちろん、決まっている人にとっても、この本が心の支えになると幸いです。

